

2017年のJICA/KITA技術研修(コース名「中小企業振興」)に参加された林めぐみさん(ブラジル帰国研修員)から元コースリーダーの三木義男さんへお礼を兼ねた近況報告のメールが届きましたので、以下に紹介させていただきます。

三木先生へ

お久しぶりです。いかがお過ごしでしょうか。

中小企業振興の研修に参加してから、既に5年経ちました。

研修は私にとってとても貴重な人生経験になりました。今でも一緒に研修を受けた皆さまと連絡をとり、交流を続けています。その機会を与えてくださったJICA、KITA、そして三木先生には、感謝しかありません。改めて、心から感謝申し上げます。

2017年の研修では、講義や視察、グループディスカッション・アクションプラン作成等、多岐にわたる研修内容でした。講義では、経営・管理等をテーマに分かりやすく丁寧に教えていただきました。講義の後は、講義内容に関連する工場や現場を視察しました。そしてグループディスカッションやアクションプラン作成では、講義や視察で学んだことをしっかりと吸収することができました。今でも資料を見なくても「5S」「改善」「ブレイクスルー」「着眼点」等、研修内容を鮮明に覚えています。研修では、仕事の面だけではなく個人的な面でも成長でき、とても貴重な経験となりました。

その中でも、深く印象に残ったことが2つあります。

1つ目は、「枠の中に囚われず、自由な発想を持つ」ことです。日本のオリンピックで、段ボールのベッドが使用されているというニュースを観たとき、研修で訪れたタンボール工場への視察を思い出しました。その段ボール工場でも、ペット用品や家具など、段ボールで様々なアイデア商品を開発されていました。「段ボールは箱に使用されるもの」という固定概念を壊された衝撃を今でも覚えています。

2つ目は、「一村一品運動」です。「一村一品運動」発祥の地とされる大分県への視察では、かりんとう工場の皆様の笑顔や地域振興への取り組みに感動しました。私が住んでいるブラジルのパラナ州でも、日本の「一村一品運動」や「道の駅」が地域振興の成功例として紹介されています。パラナ州知事自ら「道の駅」を、コロナ後の地域経済復興を目的とした重要プロジェクトとして発表しています。実は、パラナ州と兵庫県には50年以上にわたる友好提携関係があります。その関係から、私が勤めていた兵庫県ブラジル事務所を通して、パラナ州の「道の駅プロジェクト」に携わる事ができました。研修の経験を活かすことができ、とても嬉しかったです。この取り組みを通して、地域がますます活発化することを期待しています。

現在、私は日系企業の総務課で勤め始め、改めて日本式経営や管理を勉強しています。前職までは、主に外部との仕事が多かったのですが、総務課では主に内部の仕事に取り組んでいます。覚えることが多くて大変ですが、充実した毎日を過ごしています。

コロナ禍の影響で不安な状況が続いていますが、「コロナと共に」過ごす日常が普通になりつつあります。JICA 研修も少しずつですが、オンラインではなく、対面式研修を再開していると風の噂で聞きました。現場・工場視察は、私にとって最も勉強になった部分ですので、これからの研修生にも是非経験していただきたいです。

改めまして、貴重な経験を与えてくださいました JICA と KITA の皆様に心より感謝申し上げます。皆様の益々のご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。

林めぐみ